

二〇二六年三月一四日

細波の綺羅さかのぼる春の川
一汁一菜なれども贅に寒蜆
撮影のドローン寝釈迦を覚ますまじ
夕潮の満ちくる浜や桜貝
半眼の丈六仏や堂訝ゆる

康子
うつき
せいじ
花茗荷
うつき

二〇二六年三月二三日

水底の砂躍らしむ春日かな
とりどりの色帽子散る春の野辺
涅槃図の子らへの絵解き相伴す
昏れてなほ白しろと映ゆ花辛夷
水音に沿ひし畦道いぬふぐり
麗らかや千里の浜に鳥遊ぶ
貨車来ればいつも数ふる春堤

澄子
澄子
せいじ
うつき
勉聖
花茗荷
うつき

二〇二六年三月二二日

潮の香をこぼす若布をお裾分け
多摩川の堰洗ひ落つ春の水
春光の屋根眩しさう鐘馗様
達筆の御朱印翳しみる春日
僧総出大涅槃図に手をやきぬ
のどやかに反るや古刹の大庇

よし女
むべ
うつき
こすもす
うつき
あひる

二〇二六年三月一日

春光にまなこ見開く仁王かな
春日影散らして翔ちし雀どち

きよえ
むべ

大涅槃図月天井の真中に
うつき

せせらぎの調べに和して百千鳥
澄子
にはたづみ否春の空跨ぎけり
みきえ
厨事止めて黙禱東北忌

二〇二六年三月一〇日

耳至福水琴窟の春の音に
あひる
マンサクの卍卍に綴り咲く
あひる

二〇二六年三月九日

舷の水陽炎の揺れやま
澄子
木蓮の天に献花すごと真白
むべ
花ミモザ杉板塀を溢れ出で
伸枝
そこここに名札つけられ入園児
康子
母として母校訪ふ卒業日
澄子
御手洗の水満々と陽炎ひぬ
ぼんこ

二〇二六年三月八日

地を擦りて枝垂桜の芽吹きをり
なつき
やはらかきお薄の泡や春障子
あひる
潮風の届くこの丘犬ふぐり
よし女
影落とす枝垂柳や丹塗橋
むべ
蓬生ふ野面積なる城垣に
たか子

毎日句会みのる選・二〇二六年三月一六日